

日時 Date and time	2021年4月10日(日) 13時~15時30分 (150分) Sunday, April 10, 2021 1:00 p.m. - 3:30 p.m. (150 minutes)
タイトル Title	3枚のお告げ鑑賞 Art appreciation with 3 cards
	Peatixで告知しあつまった参加者に実施 To be announced on Peatix (online ticketing site) and conducted for participants who have gathered.
場所 Location	オンライン Online
参加者 Participant	4名 4 people
鑑賞作品 Art works	岸田劉生 「道路と土と塀」(切通しの写生) Ryusei Kishida, "Road, Earth, and Fence" (sketch of a cut through) https://artsandculture.google.com/asset/road-cut-through-a-hill-kishida-ryusei/bgGXUv2PliXNXQ?hl=ja



18年に宇都宮美術館で行った鑑賞プログラム「饒舌な常設」を
オンラインで行うトライアル

Online trial of "Jozetsu Na Josetsu [Talkative Permanence]" a viewing program conducted at the Utsunomiya Museum of Art in 2018.

詳細：<https://www.yusatoweb.com/kanshou-jozetsu>



<参加者準備物>

- ・メモ用紙
- ・ペン

*ZOOMと同時に使えるのなら、タブレット・スマホのメモ機能でも可能

<Participants should prepare the following items>

Notepaper

Pen *If you can use ZOOM at the same time, you can use the memo function of your tablet or smartphone.

内容 Contents	詳細 Details	時間 Time	経過 Elapsed time
挨拶 Greeting	遅刻者を待ちつつ、流れ説明、持ち物・マイクチェック Waiting for late arrivals, explaining the flow, checking belongings and microphones	5	5
概要 Overview	プログラムについての説明。タイムスケジュール Explanation of the program. Time Schedule	10	15
心得 Knowledge	鑑賞の心得 リンク先の内容を伝える： https://note.com/yusatoweb/n/n588850695ac9 Tips for Art Appreciation Communicate the contents of the link	15	30
ウォームアップ Warming-up	鑑賞作品のリンクを送り、5分鑑賞する。 感じ、考えたことをメモする。 その後、参加者全体で感想を共有する。 Send them a link to the Art work and give them 5 minutes to watch it. Take notes on what you felt and thought. Then, share your impressions with all participants.	15	45

	<p>カードを引くページのリンクを送り、使い方を共有する。 Send them a link to a page where they can draw cards and share how to use them. https://www.yusatoweb.com/ %E3%81%8A%E5%91%8A%E3%81%92%E9%91%91%E8%B3%9E</p>  <p>10枚のカードから、1枚を選び、カードのリンク先のページに書かれたテキストを読み、任意の解釈で鑑賞を10分間行う。 Choose one of the ten cards, read the text on the page linked to the card, and have ten minutes of viewing with any interpretation you wish.</p>  <p>時間が来たら、別のカードを引き、3枚繰り返して約30分の鑑賞を行う。 When the time is up, draw another card and repeat the three cards for about 30 minutes of viewing.</p> <p>*長時間であるので、鑑賞中の振る舞いは各自の自由とする。 Since it will be a long time, you are free to behave as you wish during the viewing.</p>	35	80
<p>休憩 Rest</p>		10	90
<p>共有 Share</p>	<p>参加者にこれまでの鑑賞体験について、順番に話してもらい、共有する。 Ask participants to take turns talking and sharing about their viewing experiences to date.</p>	30	120
<p>解説 Explanation</p>	<p>鑑賞作品について、簡単な解説を行う。 Provide a brief explanation of the Art work.</p>	20	140

所感：

Feelings

- ・手応えはあったが、オンラインの環境にカードの内容などを合わせていかないとやりにくいと感じた。
→18年に使用していたカードの文面を改訂。図像・英訳という新たな要素も。

I had a good response, but I felt that it would be difficult to adapt the content of the cards to the online environment.

→Revised the text of the cards that were used in 2018. New elements such as images and English translation were added.

- ・一つの画面で引いたカードと、鑑賞作品の両方を確認するのが難しいということがわかった。
→カードは全員で共通のものを引き、手元の紙にテキストを写させるということにした。

I found it difficult to check both the card I drew and the work I viewed on a single screen.

→We decided to have everyone draw a common card and copy the text on the paper at hand.

- ・鑑賞に慣れてない人には上手く導入できないかもしれない。鑑賞に対して恐れがない中級者以上を対象にした方がより良いと感じた。

If you are not used to appreciation, you may not be able to introduce it well. I felt that it would be better to target intermediate level students and above who are not afraid of appreciation.

「他者」

私でありながら、私ではないものになってみます。

ここにいる誰かでも、そうではない誰かでもいいでしょう。

つまりは、他人になりきることです。

その誰かだったら、この状況をどう感じ、受け取るのか？

目線の端に映るこの人は、今何を考えているのか？

誰かを経由することで、思考はまた自身へ帰ってゆきます。

「参照」

詳しく書かれているものを紐解いてみる。

自分にとって正しい言葉がそこにあるとは限らない。

むしろ、そうではない言葉の方が多いかもしれない。

目的はそこではない。

他者の言葉を使って自分を省みる。自分に立ち返る。

他者の思考を迂回して、また自分に戻ってくる。

答えを見つけるためではなく、よく感うためにページを開く。

※ 資料を手にとる

「静寂」

耳を塞ぎ、

自分自身が一つの目になって、

もっとずっと孤独になってみます。

言葉は外側ではなく、自分の内側奥深くへ発してみます。

私一人だけ、目の前の世界と違う、

平行世界の中で存在していたのかもしれない。

静寂、そして鼓動や体温への気づきが、

また違う何かを見せてくれるかもしれません。

※耳栓、イヤーマフを使用する

「疑心」

疑う心は、素直な心と同じくらい、

いやそれ以上に慕いものにも思える。

疑いが、

「かもしれない」という可能性を生み出してゆく。

世の中は「かもしれない」事ばかりのような気がする。

そんな中で「そうだ!」と納得するには、

考えられる限りの「かもしれない」を想像することが必要「かもしれない」。

「五感」

「見る」ことにおいて、目に頼りすぎているのかもしれませんが、

聞き、嗅ぎ、触れ、味わうことも、見ることに多くを働きかけるようです。

ほんとうは、いつも五感全てが何かを感じていて、

どれかの感覚が「無」の瞬間というのはいりえないようにも思えます。

ここぞというときは、感覚を全てオンにしておくのが、大切なのかもしれません。

「一息」

さて、いろいろありました。

ここらで一息入れて、こしかけてみます。

休むことで、ピントが合ってくるものもあるでしょう。

整理したり、振り返ることで、練られるものもあるでしょう。

深く腰掛け、深く呼吸することが、思考を循環させるでしょう。

立ち止まることで、進むこともまたあるでしょう。

* 椅子に座る

「減速」

動きの速度を落とす。

考える速度も落ちてゆく。

周りの世界もいつもよりゆっくりになって、よく見える気がする。

呼吸も深く、遅くなる。

じっくりと感じ、考える。

周りから取り残されるくらいでちょうどいい。

もっと深くへ潜り、もっと奥へ向かう。

「以外」

目の前にあるものは、「それぞれのもの」の本質ではないのかもしれない。

むしろ、それがそこにあることで、見えてくるもの、想起されるもの、起こる状況、「それぞれのもの以外」のものこそが、「それぞれのもの」の本質なのかもしれない。

視界を反転させて、「それぞれのもの以外」を見ることです。

「振り子」

目の前のものと私の間には、どのくらいの距離があるのだろうか？

とても近い気もすれば、信じられないくらい遠い気もする。

どこかで関係しているようで、何も関係していないような。

近づき寄り添って、じっくりと感じ入ること。

遠いところから、ぼーっと眺めること。

近づくほど、どんどん離れて行くような。

離れるほど余計に近く感じるような。

近づき離れることを繰り返す、振り子のように。

「距離」

心はここから離さず、体をここから離して見る。

部屋の中から外へ。

屋根のないところまで行くのもいいかもしれません。

もうこの場所が見えなくなるまで、距離を取る。

離れていながら、心はここから離さない。

離れているからこそ、ここにつながるものがある。

離れているからこそ、ここがよりはっきりと見えてくる。

* 地図を受け取る。

饒舌な常設

JYOZETSU NA JYOSETSU

饒舌な常設